



オーストラリアの人事戦略で成功する為には その37

先週末、五十肩で肩が上がらず何も出来ない為、自宅でローカルのテレビをかけながら仕事をしていた所、クイズ番組で面白い質問がありましたので何点かご紹介させていただきます。まず最初にオーストラリアで国歌が歌えない人はどのくらいいるのでしょうかという質問で、回答は59%でした。日本でも君が代を歌えない人は同じくらいではないでしょうか。次のクイズの中でオーストラリアの国民性を非常に解いた質問がありました。そのクイズはもしあなたのパートナー（ご主人、奥様、同棲相手）が30kgのコカインを所持していた場合、あなたは別れますか？というクイズです。オーストラリアでは89%の方が別れないと回答いたしました。もしこれが日本であれば半数以上の方は別れる方を選ぶと思われれます。

つまりオーストラリア人の別れる率が少ないのは当然、個人主義を表しているわけではありますが、日本の場合は逆に社会主義であり、社会における自分の地位が重要でありますので半数以上の方が離婚すると思われれます。オーストラリアの場合は社会悪以前に自分たちの幸せが1番大切であり、社会悪であっても、一緒にいて幸せであれば幸せをを優先するという事が数字に表れてるのではないのでしょうか。個人主義の場合、法律に触れるような行為をしなければならぬ時、その法律に触れない国または地方に移住するべきであると考えなければなりません。ところが日本人のような社会主義の場合、今まで御世話になってきた国家または地方自体の中で仮に法律に触れた場合、自分たちがその法律に不満であっても今まで恩恵を受けてきたわけでありますから、罪を償うべきであると考えるのであります。

この様な悪く言えば身勝手、良く言えば自分のしたいように生活する人たちを我々は雇用していかねばなりません。したがって会社の利益の為に一団となって仕事をしましよと旗を振ってもこちらの人にとっては馬の耳に念仏であり、会社の利益が自分たちにどのような利益をもたらすのか説明しない限りこちらの方は耳を傾けようとしません。各個人の利益や希望が満たされる為に会社という組織が必要であると気づいた時に初めてこちらの方は会社の為に仕事をしようと思致します。よって士気を上げる為にもまず各社員が何を望んでいるかを理解することが重要となってきます。いかに大企業であり社員が1000人以上でありましても会社の構成員は各個人であります。各個人の士気が低ければ大企業といえども砂の砂城となってしまいます。非常に収益の悪い企業体となってしまいます。

しかしオーストラリアのみならず各社員が真剣に自分がこうしたいと考える方はごくわずかではないでしょうか。しかがって数千人の社員を抱える企業でも社内に何人かのモーテベターがおり、その人たちの指揮の下に他の社員がよく言えば啓蒙され、悪く言えば虚像を描いて仕事をしているのが現実ではないのでしょうか。つまり自分の利益が会社の方向性と一致していると思わせる事が出来る会社の代理人であるモーテベターが必要となってきます。これにより会社の方針は自分たちの利益になると思える事が出来るのであります。これを日本国内の企業の社員に当てはめてみれば自分たちの属している、組織つまり企業の繁栄は非常に重要であり、なぜならば自分はその組織員であるからです。よって会社の利益になれば会社としては各社員の利益を考えずに会社に利益を反映することが出来ると言えます。